

サイトメガロウイルス感染に関する研究 (分担研究報告書)

分担研究者 中尾 亨
研究協力者 沼崎 義夫

妊娠経過中における母体のサイトメガロウイルス(CMV)感染と胎児感染を知る目的で多数の妊婦と新生児を対象にウイルス血清学的研究を行い以下の成績を得た。

1. 妊婦におけるCMV感染

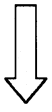
妊娠初期、中期、後期に経時的に採取した血清についてCMVに対する補体結合抗体価を測定した結果、2,000名中26名(1.3%)の妊婦にCMV感染が証明され、うち7例が初感染と考えられた。また妊娠初期から毎月経時的に尿からのウイルス分離が試みられた756名の妊婦中17名(2.2%)にウイルス尿を認めCMVの感染が確認されたが、大部分は抗体価の有意変動を示さなかった。

2. 胎児期のCMV感染

胎内感染のスクリーニングを目的として臍帯血

1,126例についてCMV特異的IgM抗体の測定を行ったが、この方法では1例も検出されなかった。一方、新生児尿からのウイルス分離によるスクリーニングでは、1,270例中8例(0.6%)にウイルス尿を認め胎内感染が証明された。これらの8名は全例新生児期に異常を認めず、現在長期予後について追跡中である。なお、これら8名中3名の母親については妊娠初期から追跡されていたが、いずれも妊娠初期すでに抗体を保有しており、再燃もしくは再感染と推定された。

以上の成績から、本邦においてもCMVの胎内感染が毎年多数発生していることが予測されるが、新生児期に無症状のため見過されているものと考えられ、効果的なスクリーニング法の開発とともに、感染児の中枢神経系の長期予後に関する研究が必要と考えられる。



検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用

論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



妊娠経過中における母体のサイトメガロウイルス(CMV)感染と胎児感染を知る目的で多数の妊婦と新生児を対象にウイルス血清学的研究を行い以下の成績を得た。